

三つのポリシーについて（2021.4～）

1 中央工学校 O S A K A の三つのポリシー

（1）ディプロマ・ポリシー（卒業認定・称号授与の方針）

カリキュラム・ポリシーに沿って設定した履修すべきすべての科目を履修・合格し、

- ①より実務性の高い専門的な知識・技術を身に付けていること
- ②堅実かつ誠実で信頼される豊かな社会性と創造力を身に付けていること

（2）カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

- ①確かな知識・技術を有する人材を育成するための「厳しい実務教育」
- ②豊かな社会性と創造力を有する人材を育成するための「人間涵養教育」

（3）アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

- ①自らの知識・技術により自立を志す者
- ②協調性をもち人とのかかわりを大切にする者

2 建築系（研究科を除く 2 年制 3 学科）の三つのポリシー

（1）ディプロマ・ポリシー

建築系 2 年制 3 学科では、以下の資質、能力を総合的に身に付け、社会の発展に貢献できる力を備えていること。

- ①学科ごとに必要とされる知識・技術を適切に活用し、課題に取り組む力。
- ②実務遂行能力として、専門知識、及び設計・製図技術に基づき、論理的に裏付けされた適切な提案ができる力。
- ③主体性ある技術者として要求される豊かな社会性と創造性。

（2）カリキュラム・ポリシー

①教育課程編成・実施の方針

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、講義・演習・特別活動を適切に組み合わせ、以下のように体系的に編成されている。

- ◇ 1 年前期：3 学科に共通する一般科目、共通専門科目、共通演習科目によって、3 学科共通の基礎知識・技術を学ぶ。また、特別活動としての合宿研修では、社会人としての自覚を身に付ける。
- ◇ 1 年後期：各学科の基幹科目である必修の専門科目、演習科目を主軸に、高度な発展科目により、活用力・応用力を養う。
- ◇ 2 年前期：各学科ともより専門性を高めたコースごとのコース別科目により、創造性ある実践力を養うとともに、特別活動として、就職を見据えたインターンシップを実施することで、対応力と協調性を養う。
- ◇ 2 年後期：獲得した知識、技術を総合的に活用して、主体的に卒業制作に取り組み、問題意識を持って計画・立案し、具現化する力を養う。

②学修成果の評価の方針

講義・演習・特別活動を通して、知識の理解と課題解決のための提案力・表現力が備わったかを筆記試験、レポート、作品の制作・プレゼンテーション等により評価する。

（3）アドミッション・ポリシー

中央工学校 O S A K A の入学者受入れの方針に基づき、以下の意欲、能力、姿勢が備わった

者を受け入れる。

- ①意欲：建築、住宅デザイン、インテリアデザインに携わり、社会に貢献するために主体的に学びたいと考えている。
- ②能力：本校の求める学歴又は資格を有し、社会の諸問題に気づき、これまでに身に付けた力で主体的に考え、自己の意見を述べることができる。
- ③姿勢：未知のことに興味関心を持ち、周囲に配慮しながら、誠実に物事に取り組む姿勢を有している。

2-1 建築学科の三つのポリシー

(1) ディプロマ・ポリシー

①身に付けるべき資質・能力

建築業界の広い分野に必要とされる責任能力及び豊かな社会性を有する専門技術者として求められる建築知識並びに設計製図技術。

また、実務に当たって必要とされる能力として、理論的根拠に裏付けされた提案力と表現技術を駆使して、より良い社会を創造するために貢献できる力。

②目標とする職業人

的確な状況判断と社会の技術進展に対応できる思考力、応用力が涵養された職業人。

(2) カリキュラム・ポリシー

①教育課程・授業の在り方

建築系における教育課程編成・実施の方針に基づき、本学科の教育目標を達成し、日々進展を続ける建築界の社会的、時代的要請に対応できる力を養うため、以下のような主旨・内容の科目、特別活動を設け、関連性を考慮して編成・実施する。

- (a) 集団の秩序と規律のもとに自己を主張しつつ、円満に業務が遂行できる技術や人間としての成長を促す科目、特別活動を設ける。
- (b) 本学科の学生は、卒業と同時に一級建築士・二級建築士の受験資格、また卒業後2年の実務経験で2級建築施工管理技士の受験資格を得ることができる。このような社会的責任の重要性を十分認識の上、本学科が単なる建築士受験予備校的存在に偏することなく、すべての科目は、本質的技術能力を高めるものとする。
- (c) 設計・製図をベースとして、建築技術を総合的に理解でき、実践力向上のために、段階的かつ合理的に編成された科目構成とする。
- (d) 建築工事の合理性や建築物の機能向上を担う施工、構造、材料、設備等について様々な角度から学び、当該分野で活躍できる力を養う科目を設ける。
- (e) 獲得した知識、技術を活用して、建築物や建設現場の問題解決のための提案や自由な発想で建築を創造することに挑戦できる卒業制作を設ける。

②学修成果の評価方法

建築系の学修成果の評価の方針に基づき、客観的な評価基準を設け、評価する。

(3) アドミッション・ポリシー

建築学科では、建築系の入学者受入れの方針に基づき、以下の意欲、能力、姿勢を有する者の入学を受け入れる。

- ①意欲：建築によって人々や社会に良い影響を及ぼしたいと考えている。
- ②能力：建築について理解していることを自分の言葉で表現することができる
- ③姿勢：他者の個性や気持ちを尊重し、自分の考えを発信する努力ができる。

2-2 住宅デザイン科の三つのポリシー

(1) ディプロマ・ポリシー

①身に付けるべき資質・能力

住宅を中心とした分野に必要とされる責任能力及び豊かな社会性を有する専門技術者として求められる建築知識、設計製図技術、表現力、住宅計画力。

また、実務に当たって必要とされる能力として、顧客と対話し、問題・要望を把握する能力、及び理論的根拠に裏付けされた提案を表現技術を駆使して、社会に発信し、より良い暮らしを創造するために貢献できる力。

②目標とする職業人

実践的な技術力を備え、他者との対話力が涵養された職業人。

(2) カリキュラム・ポリシー

①教育課程・授業の在り方

建築系における教育課程編成・実施の方針に基づき、本学科の教育目標を達成し、様々な背景を持つ住まいを考える力を養うため、以下のような主旨・内容の科目、特別活動を設け、関連性を考慮して編成・実施する。

(a) 社会背景や多様な考え方を受入れ、円満に業務が遂行できる技術や人間としての成長を促す科目・特別活動を設ける。

(b) 本学科の学生は、卒業と同時に一級建築士・二級建築士の受験資格、また卒業後2年の実務経験で2級建築施工管理技士の受験資格を得ることができる。このような社会的責任の重要性を十分認識の上、本学科が単なる建築士受験予備校的存在に偏することなく、すべての科目は、本質的技術能力を高めるものとする。

(c) 現代の家族・家庭・地域・社会を含めた住まいを取り巻く様々な問題に気づき、住宅を通して、解決策を提案できる力を養う科目を設ける。

(d) 顧客との対話から課題を把握し、要望を住宅空間として具現化する技術を養う科目を設ける。

(e) 自由な発想から、住まい方を創造し、住宅や住環境として具現化する一連の業務に従事するために必要な能力を高める総合的な課題に取り組む卒業制作を設ける。

②学修成果の評価方法

建築系の学修成果の評価の方針に基づき、客観的な評価基準を設け、評価する。

(3) アドミッション・ポリシー

住宅デザイン科では、建築系の入学者受入れの方針に基づき、以下の意欲、能力、姿勢を有する者の入学を受け入れる。

①意欲：住宅デザインによって人々や社会に良い影響を及ぼしたいと考えている。

②能力：住宅デザインについて理解していることを自分の言葉で表現することができる。

③姿勢：他者の個性や気持ちを尊重し、自分の考えを発信する努力ができる。

2-3 インテリアデザイン科の三つのポリシー

(1) ディプロマ・ポリシー

①身に付けるべき資質・能力

実務に即応し得るための専門知識・技能の習得とデザイン的な感性を磨き、広く社会に受け入れられる社会性と自主性、責任能力。さらには、インテリア業界を取り巻く環境・社会的条件を分析し、将来を展望したうえで、魅力的なインテリアの価値を創造できる力。

②目標とする職業人

実践的な技術力を備え、空間の価値を創造する力が涵養された職業人。

(2) カリキュラム・ポリシー

①教育課程・授業の在り方

建築系における教育課程編成・実施の方針に基づき、本学科の教育目標を達成するために、以下のような主旨・内容の特別活動、科目を設け、関連性を考慮して編成・実施する。

- (a) 建築基礎知識、技術を備え、色彩、形状、テクスチャの効果、機能性を理解し、それらを適切に選択、活用する力を養う科目を設ける。
- (b) 課題に対し、解決策を空間デザインとして具現化するデザイン力と表現力を養う科目を設ける。
- (c) 情報収集・分析から、自己の志向性や価値観を確認し、独自の企画や新しい価値を創造する力を養う科目を設ける。
- (d) 他者との協働体験を通して、対話力を養い、仲間と目標達成する喜びから、生涯にわたって、仲間と共により良い社会を追求し続ける力を養う科目、特別活動を設ける。
- (e) 自由な発想から、イメージやシーンを想起させる空間や家具として具現化する一連の業務に従事するために必要な能力を高める総合的な課題に取り組む卒業制作科目を設ける。

②学修成果の評価方法

建築系の学修成果の評価の方針に基づき、客観的な評価基準を設け、評価する。

(3) アドミッション・ポリシー

インテリアデザイン科では、建築系の入学者受入れの方針に基づき、以下の意欲、能力、姿勢を有する者の入学を受け入れる。

- ①意欲：インテリア（空間）デザインによって人々や社会に良い影響を及ぼしたいと考えている。
- ②能力：インテリア（空間）デザインについて理解していることを自分の言葉で表現することができる
- ③姿勢：他者の個性や気持ちを尊重し、自分の考えを発信する努力ができる。

2-4 研究科の三つのポリシー

(1) ディプロマ・ポリシー

建築等の専門分野における必須の資格を有し、より高い専門性と実務即応性を身に付けていること。試験対策を通して本質の理解を深め、またその過程においては、決してあきらめず、仲間と共に粘り強く合格を目指すことにより、人間的に成長していること。

また、獲得した知識、技術によって広がった視野に応じて本人の好奇心や探求心を満足しうる授業を選択して取り組むことにより、専門知識・技術が強化され、達成感・充実感の醸成されていること。

(2) カリキュラム・ポリシー

①教育課程・授業の在り方

研究科では、教育目標を達成するために、以下のような主旨・内容の科目を設け、関連性を考慮して編成・実施する。

- (a) 9月中旬までは、資格取得を第一目標とした資格対策授業科目で教育課程を編成し、二級建築士の資格取得を目指す。
- (b) 資格対策授業科目は、反復と確認学習（スモールステップ&フィードバック）として、日々の小テストと複数回の模擬試験を効果的に導入し、到達度や弱点の確認から、対策を探り、即座に指導に反映し、確実な理解を目指す。
- (c) 後期は、個々の希望による選択授業において、研究・学習意欲を満足するゼミ方式で自ら設定したテーマに取り組み、専門性を高め、創造力と実践力を高める。また、卒業後の将来目標を明確にする。
- (d) 希望者を対象にしたビジネスインターンシップでは、就職希望分野の企業や就職内定先などで長期インターンシップを実施する。また、校内でティーチングアシスタントを経験することもできる。一定の責任を担いながら積極的に業務に従事することで、社会性や実践力を修得する。

②学修成果の評価方法

資格試験の合否にかかわらず、建築系の学修成果の評価の方針に基づき、客観的な評価基準を設け、評価する。

(3) アドミッション・ポリシー

研究科では、仲間とともに、目的をもって二級建築士などの資格を真剣に取得し、獲得した知識、技術を創造的に運用する力をつけようと考えている者の入学を受入れる。ただし、二級建築士の受験資格を有する者に限る。

以上